

水稻「風さやか」高品質良食味栽培指針(令和3年版)

上伊那農業農村支援センター
JA上伊那

	11月	3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
作業体系	堆肥施用 耕起	塩水選 種子消毒 浸種 催芽 播種	育苗管理(30~35日)			基肥施用 入水 荒代 植代	田植え	初中期除草剤散布	生育診断 雑草発生状況により 中期か後期剤散布			追肥 籾数確保	出穂期観察			落水 走水	收穫判定	收穫					
水管理																							
栽培管理	<p>「風さやか」の特徴：長野県農業試験場育成。 コシヒカリに比べ出穂が3~4日程度遅く、成熟期は10~14日程度遅い。倒伏・いもち病に強く、収量性が良い。 但し、過剰な施肥は籾数過多となり、登熟歩合の低下や青未熟粒の増加及び食味の低下につながるのを避ける。 成熟期がコシヒカリより遅いので、作期分散して収穫適期幅を拡大できる。 ◎適応標高：470~700m(650mを超える地帯では青米が残り易いので、 籾の色をよく観察して適期になってから刈り取ること！) ~良食味・高品質米を目指して~</p> <p>1 施肥(有機物を施用し地力を高める。) ☆堆肥等の有機物を施用する場合、春施用すると、ガス湧きによる生育障害が生じるので、<u>原則、前年の秋に施用</u>、耕起して、分解を促進する。 ☆その他の有機物を施用する場合は支援センター・JAへ相談する。 多肥にすると、無効分げつ、屑米、青未熟粒が増加する傾向にあるので、過剰な施肥はしないこと。</p> <p>(1) 基肥一発肥料 「風さやか」専用一発(N:18 P:18 K:10)比重0.9 ※窒素成分の50%速効性、50%緩効性LPS配合 側条施肥：50~55kg/10a N9~9.9kg/10a (全層施肥：60kg/10a N10.8kg/10a)</p> <p>(2) 基肥 + 穂肥 分施肥 ①基肥 側条施肥：上伊那米1号 34~42kg/10a (N4~5kg/10a) (全層施肥： N 5~6kg/10a)</p> <p>②追肥 1回目：上伊那穂肥1号 10~15kg/10a (N2~3kg/10a)・幼穂形成期 2回目：上伊那穂肥1号 10kg/10a (N2kg/10a)・幼穂長10mm</p> <p>2 播種・育苗管理 一般の品種と同様に行う。</p>											<p>3 田植え ・適期：5月10日~20日頃まで(標高700m付近では、早めに田植えをする) ※ 極端な早植は、コシヒカリと収穫時期が重なり作期分散にならないので注意！ また適期より遅いと十分に登熟しないので、大規模経営でコシヒカリの田植え時期が5月20日過ぎまでかかる場合は、一時中断して「風さやか」を5月20日までに田植えする。 ・一般栽培に準じ、60~70 株/坪植え、3~4本/株植えとする。コシヒカリより穂数が少ないので、極端な疎植(50株未満/株)は避ける。</p> <p>4 病虫害防除 (1) 苗箱施薬：殺菌殺虫剤を必ず処理する。 (2) いもち病防除：葉いもちの進展が見られた場合は、治療剤を散布する。 ☆多発の恐れがある場合は、薬剤による防除に努めること。 (3) カメムシ防除：慣行どおりに防除すること。</p> <p>5 雑草対策 一般栽培に準じる。</p> <p>6 水管理 ・田植え後ガス湧きが多い場合は、軽く干して酸素供給を行う。 ・幼穂形成期以降、低温時は深水管理を行う。 ・落水が早過ぎると、品質が低下するので注意！収穫時期まで土壌が乾き過ぎないように、可能な限り走水を入れる。</p> <p>7 中干し 無効分げつや遅れ穂の増加を防ぐため、有効茎数(2枚以上の葉のある分げつ)が22~23本程度/株になったら、コシヒカリより長めの中干しをする。</p> <p>8 収穫適期の判定 ・出穂後日数による目安 50日前後 ・帯緑色籾歩合による目安 5% (籾の色を観察して判断すること！) ・刈取時期、搬入についてはライスセンターへ問い合わせること。</p>											